

事業の概要

1. 業務題目

アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業（北海道沙流郡平取町）

2. 業務の目的

我が国における言語・方言のうち、ユネスコが最も消滅の危機に瀕^{ひん}していると認定しているアイヌ語について、消滅することなく、その保存・継承が円滑に行われるよう、各地で保存されているアイヌ語の音声資料を活用し、アイヌ語学習への援用も視野に入れたアーカイブ化に関する調査研究を行う事業が、平成25年度から文化庁によって行われることとなった。

平取町には、平取町教育委員会が主体となって昭和44年に記録した、アイヌ口承文芸のオープンリールテープが平取町立二風谷アイヌ文化博物館に所蔵されている。記録後今日に至るまで非公開の資料で、かつ保存状態は良好である。被採録者6名の居住地は沙流川流域の各地にわたっており、全員が流暢^{ちよう}なアイヌ語話者である。

文化庁事業の目的にかない、かつアイヌ口承文芸の今日的継承を推進していく上で、本音声資料の整理、分析、公開が果たす役割は大きいと考えられる。そうしたことを踏まえながら、平成25・26年度の2か年にわたってアイヌ語学習への援用も視野に入れたアーカイブ作成に向けた基礎的な作業及び調査研究を行う。

3. 調査体制

(1) 事業の概要

事業委託者 文化庁

事業受託者 国立大学法人千葉大学（業務担当：文学部教授 中川裕）

再委託先 北海道沙流郡平取町

（業務担当：平取町教育委員会文化財課主幹 長田佳宏）

業務期間 第1年次 平成25年 8月12日 ～ 平成26年3月25日

第2年次 平成26年 9月 4日 ～ 平成27年3月31日

(2) アイヌ語の転写(聞き起こし)

監修 中川裕

転写・翻訳担当（平取町民及び出身者等の関係者）

関根健司，貝澤美和子，萱野志朗，関根真紀，尾崎友香，山道ヒビキ，山道陽輪，矢崎春菜

転写・翻訳担当（千葉大学大学院生及び関係者）

遠藤志保，小林美紀，深澤美香，吉川佳見，佐藤雅子，欠ヶ端和也，藤田護，大坂拓，
八谷麻衣

アイヌ語校閲補助

北原次郎太（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）

4. 資料の概要

対象としている音声資料はオープンリールテープ24本分で、録音時間（アイヌ口承文芸部分）は1,135分19秒（約19時間）に及ぶ。収録されているアイヌ口承文芸は98編で、内訳はウエペケレ（散文説話）53編，カムイユカラ（神謡）29編，ユカラ（英雄叙事詩）11編，ルパイェ（節のない語り）4編，言葉遊び1編となっている。

昭和44年に平取町教育委員会から委嘱された調査員は故萱野茂氏で、録音は同年1月～4月に行なわれている。被採録者は全員女性で、貝澤とうるしの（当時の居住地は平取町二風谷：以下同様），平賀さだも（日高町富川），鍋澤ねぷき（平取町去場），平目よし（同荷菜），木村きみ（同ペナコリ），黒川てしめ（同荷負本村）の6名である（音声資料の詳細は表1参照）。

5. 業務の成果

(1) アイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）

地元（平取町）に残されたアイヌ語音声資料（ウエペケレ：681分31秒，カムイユカラ：187分22秒，ユカラ：198分06秒，ルパイェ：67分02秒，言葉遊び：1分18秒，合計1,135分19秒）を活用し，アイヌ語のアーカイブ化を行うための基礎作業として，まずアイヌ語の転写（聞き起こし）を実施した。一次作業はアイヌとしてのアイデンティティを持ち，アイヌ語の基礎的なトレーニングを受けた平取町民及び関係者と，千葉大学文学部大学院生・関係者で行なった。

その転写作業の結果は，千葉大学教授中川裕に送られた。そこで，アイヌ語の聞き取りに対する校閲を行い，その結果を踏まえて二風谷アイヌ文化博物館及び千葉大学における講習会において，語学的なアドバイスをを行った。

校閲に関しては北海道大学の北原次郎太准教授と千葉大学文学部大学院生・関係者にも補助を依頼し，作業の効率化とチェック体制の強化を図った。アイヌ語の解釈に検討を要する場合は複数人でチェックし，より精度の高いアイヌ語の転写に努めた。

(2) アイヌ語音声資料の翻訳（和訳）

アイヌ語の転写と同時に日本語への翻訳を行った。まず，最初の転写と同時に仮訳を付けたものを送り，中川裕らが転写をチェック，校閲した後に担当者に戻した。校閲を受け

たテキストに改めて訳を付け、それを再度チェックするという形で丁寧に進めた。特に、意訳に当たっては本来の解釈や世界観を損なうことのないよう注意を払った。

なお、これら(1)(2)の作業は、地元出身者のアイヌ語継承に向けた訓練ともなり、アイヌ語復興・継承運動の指導者養成にもつながるものとなっている。このことから、アイヌ語の継承ということを考えるならば、研究者だけによる(1)(2)の作業ではなく、今回のような、アイヌとしてのアイデンティティを持ち、アイヌ語の基礎的なトレーニングを受けた地元民が中心となって作業を進めるという将来を見据えた形が有益であり、望ましい形態であると考えられることができる。

表1 音声資料の内容

1. 話者及び採録の概要

収録順	氏名	生没年	出身地	収録年月日	調査員	収録媒体	テープ番号
1	貝澤とうるしの	1889-1982	二風谷	昭和44(1969)年1月22・23・26日	萱野茂	オープンリールテープ	1~6
2	平賀さだも	1895-1971	福満	昭和44(1969)年2月16・17日	萱野茂	オープンリールテープ	7~13
3	鍋澤ねぶき	1889-1974	去場	昭和44(1969)年2月18・19日	萱野茂	オープンリールテープ	14~17
4	平目よし	1899-1973	荷葉	昭和44(1969)年2月21・22日	萱野茂	オープンリールテープ	18~19
5	木村きみ	1900-1988	ペナコリ	昭和44(1969)年2月24日	萱野茂	オープンリールテープ	20~22
6	黒川てしめ	1895-1973	荷負本村	昭和44(1969)年4月15日	萱野茂	オープンリールテープ	22~24

2. アイヌ語音声の内容及び分数

収録順	氏名	ウエペケレ (散文説話)	カムイユカラ (神謡)	ユカラ(英雄 叙事詩)	ルバイエ (散文形式 のユカラ)	言葉遊 び	合計	分数
1	貝澤とうるしの	19	4			1	24	227分24秒
2	平賀さだも	8	3	11			22	368分24秒
3	鍋澤ねぶき	6	15		2		23	180分34秒
4	平目よし	4			1		5	100分02秒
5	木村きみ	7	1				8	107分02秒
6	黒川てしめ	9	6		1		16	151分53秒
	合計	53	29	11	4	1	98	
	分数	681分31秒	187分22秒	198秒06秒	67分02秒	1分18秒		1,135分19秒

※98編は物語の数ではなく、1トラックごとにカウントした数の合計（ユカラは長大なストーリー展開の中で幾つかに区切って整理しており、ウエペケレはオリジナル音源の中で1話を分断して収録しているものがあるため）

表2 転写・翻訳の実績

年度	話者	ジャンル	ファイル	時間
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	1-⑧	0:08:25
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-②	0:13:57
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-④	0:10:04
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-⑥	0:08:18
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-⑧	0:02:18
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-⑨	0:07:24
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	3-②	0:09:12
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	3-④	0:14:41
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	4-②	0:11:56
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	4-④	0:09:33
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	4-⑩	0:10:47
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-②	0:11:39
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-④	0:04:41
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-⑥	0:11:08
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-⑧	0:10:59
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	6-③	0:11:40
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	1-④	0:06:29
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	1-⑥	0:08:04
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	3-⑥	0:09:40
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	4-⑧	0:03:51
25	貝澤とうるしの	言葉遊び	4-⑥	0:01:18
25	平賀さだも	ウエペケレ	10-①	0:22:26
25	平賀さだも	ウエペケレ	10-③	0:32:04
25	平賀さだも	ウエペケレ	11-①	0:07:15
25	平賀さだも	ウエペケレ	11-②	0:15:04
25	平賀さだも	ウエペケレ	11-④	0:14:09
25	平賀さだも	ウエペケレ	7-②	0:40:33
25	平賀さだも	ウエペケレ	8-⑧	0:02:25
25	平賀さだも	ウエペケレ	8-⑩	0:01:43
25	平賀さだも	カムイユカラ	8-②	0:11:07
25	平賀さだも	カムイユカラ	8-④	0:05:53
25	平賀さだも	カムイユカラ	8-⑥	0:17:39

年度	話者	ジャンル	ファイル	時間
25	平賀さだも	ユカラ	11-⑥	0:09:12
25	平賀さだも	ユカラ	12-②	0:25:11
25	平賀さだも	ユカラ	12-③	0:33:45
25	平賀さだも	ユカラ	12-④	0:05:07
25	平賀さだも	ユカラ	13-②	0:24:05
25	平賀さだも	ユカラ	13-④	0:30:41
25	平賀さだも	ユカラ	13-⑤	0:06:42
25	平賀さだも	ユカラ	9-②	0:21:40
25	平賀さだも	ユカラ	9-③	0:16:29
25	平賀さだも	ユカラ	9-④	0:11:15
25	平賀さだも	ユカラ	9-⑥	0:13:59
25	平目よし	ウエペケレ	18-②	0:23:56
25	平目よし	ウエペケレ	19-②	0:09:17
25	平目よし	ルパイエ	19-④	0:19:55
26	貝澤とうるしの	ウエペケレ	1-②	0:10:21
26	貝澤とうるしの	ウエペケレ	6-①	0:15:52
26	貝澤とうるしの	ウエペケレ	6-⑤	0:15:07
26	木村きみ	ウエペケレ	20-②	0:18:01
26	木村きみ	ウエペケレ	20-④	0:12:56
26	木村きみ	ウエペケレ	20-⑥	0:16:21
26	木村きみ	ウエペケレ	21-②	0:15:13
26	木村きみ	ウエペケレ	21-④	0:20:43
26	木村きみ	ウエペケレ	21-⑥	0:12:42
26	木村きみ	ウエペケレ	22-②	0:02:55
26	木村きみ	カムイユカラ	24-⑥	0:08:11
26	黒川てしめ	ウエペケレ	22-④	0:12:43
26	黒川てしめ	ウエペケレ	22-⑥	0:11:38
26	黒川てしめ	ウエペケレ	23-⑤	0:06:44
26	黒川てしめ	ウエペケレ	23-⑥	0:05:49
26	黒川てしめ	ウエペケレ	23-⑧	0:16:07
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-②	0:05:37
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-③	0:10:48
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-④	0:06:49
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-⑤	0:04:14

年度	話者	ジャンル	ファイル	時間
26	黒川てしめ	カムイユカラ	23-③	0:11:38
26	黒川てしめ	カムイユカラ	23-④	0:08:59
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑦	0:02:16
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑧	0:10:22
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑨	0:08:48
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑩	0:03:35
26	黒川てしめ	ルパイエ	22-⑦	0:25:46
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	14-⑦	0:10:01
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	14-⑧	0:08:16
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	15-⑮	0:12:45
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	16-⑩	0:18:24
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	17-②	0:27:44
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	17-⑥	0:11:13
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	14-②	0:01:40
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	14-④	0:10:11
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	14-⑥	0:06:06
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-②	0:07:42
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-④	0:02:25
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑥	0:07:28
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑧	0:02:43
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑩	0:03:25
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑫	0:02:37
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑬	0:06:20
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	16-②	0:02:02
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	16-④	0:07:34
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	17-④	0:01:41
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	17-⑧	0:03:53
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	17-⑩	0:05:03
26	鍋澤ねふき	ルパイエ	16-⑥	0:11:30
26	鍋澤ねふき	ルパイエ	16-⑧	0:09:51
26	平目よし	ウエペケレ	18-④	0:23:30
26	平目よし	ウエペケレ	19-⑤	0:23:24
			合計	18:55:19
※1-⑧は1号ディスクのトラック8であることを示す				(1,135分19秒)

6. 転写（聞き起こし）に時間の掛かる理由

きちんとした和訳や音声との逐一の対照を含まない一次作業としてのアイヌ語転写（聞き起こし）は、専門の研究者が、理想的な音声資料（現実にはめったにない）を用いて最も順調に行った場合でも、1時間の録音に対し最低3時間はかかっている現実がある。しかし、アイヌ語には、英語や日本語の聞き起こしとは異なる幾つかの大きな問題があり、一次作業だけを取っても、専門の研究者でも実際にはそれよりはるかに時間が掛かることが一般的である。

一つは、アイヌ語には、英語や日本語のような大規模な辞典が完備していないということである。平取町を含むアイヌ語沙流方言の辞典は、アイヌ語諸方言の中でも最も数多く出されているが、それでもJ・バチェラー『An Ainu-English-Japanese Dictionary』（1889-1938年）、田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』（1996年）、萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』（1996年）、そして一般には流通していない久保寺逸彦『アイヌ語辞典稿』（1992年）が主なものであり、信頼度に難点のあるバチェラーの2万語が最大の収録語彙数である。60万語を擁するオックスフォード英語辞典（第二版、1989年）や、50万語を擁する日本国語大辞典（第二版、2002年）とは比較にならない。これはアイヌ語研究者の怠慢というより、ひとえにこれまで文字を持たないアイヌ語（古い文字記録が残されていない）の言語研究に投入された年月と人材と資金の差によるものである。大規模な辞典がないということは、アイヌ語の音声資料の中には辞典に記載されていない単語や表現が数多く出てくるといふ問題に直面するということにつながっている。また、アイヌ語は様々な要素を組み合わせる新しい語形を作り出すことが容易にできるのが文法的特徴であり、それらの語の形や意味は辞典に載っていないだけでなく、正しく捉えるには、文法的な深い知識が必要であるにもかかわらず、そうした知識を持つ専門の研究者は極めて少ないという問題もある。

二つ目には、アイヌ語には既にほとんど母語話者がいなくなっており、聞き取りにおける不明点を解明しようとしても、それを尋ねられる相手がいらないということである。そのため、不明点の解消のためには、これまで記録された数多くの資料から類似の表現を探していくということによって行わざるを得ない。しかし、調べるべき数多くの資料をそろえるといった環境を整えている専門の研究者でも、調べるべき資料が少なくなく、非常に時間のかかる作業であり、上記の「1時間の録音に対し最低3時間はかかっている現実」というのは、音声資料の録音状態がクリアであり、現存するアイヌ語辞典の範囲の単語で話されていることによって、他の資料を当たるといった作業を行わずに済んだ場合での一次作業の概算である。

さらに、音声の機械的な処理で文字化したくても、アイヌ語に対応するものはなく、人間が行うしかないという状況にある。

今回は計画書の中で「地元人材の育成」もうたっている。これは、機械的な処理では文字化できず、人間が行うしかないないにもかかわらず、アイヌ語を専門とする研究者の数

が極めて限られている中、数多く残されているアイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）や翻訳に必要な人材は明らかに不足している現実を踏まえ、アイヌとしてのアイデンティティを持つアイヌ自身がアイヌ語の復興・継承に携わる機会となり、今後のアイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）や翻訳のためのトレーニングにもなることを見込んでのものである。

こうした点を勘案し、平取町民及び関係者が行う録音1時間当たり10時間位の見込み（一次作業としての転写+仮和訳）を想定した。しかし、最終的な結果として得られた1時間当たりの作業時間は、平均して、ウエペケレ20時間、ユカラ30時間、カムユカラ20時間、ルパイェ20時間、言葉遊び20時間と、当初の見込みを超えるものであった。平成25年度においてはこうした試みが初めてのことであり、理想的な音声資料と言えるものではなかったとは言え、予測のつかなかった部分である。平成26年度は前年度の実務を踏まえた上での転写（聞き起こし）ではあったが、何度か自分で聞き直しをしたり、辞書や他のテキストを調べたりなど、アイヌ語の力が向上したこととあいまって、一次作業の質的向上を目指した結果、意外と時間が掛かってしまうのが実際のところであった。

結果として、2年間中川裕の指導を受けて徐々に転写の精度を上げていくことができたものの、録音1時間当たりの作業時間を短縮するには至らなかった。

転写・翻訳担当者（平取町民及び関係者）はアイヌ文化振興・研究推進機構主催のアイヌ語指導者育成事業などに参加して、アイヌ語の基礎的な知識を得ており、その点では一般の人よりはるかにアイヌ語の聞き取り能力を持っている。しかし、アイヌ語の転写（聞き起こし）は単に音が聞き取れるだけでは済まない点がある。例えば、アイヌ語には人称接辞というものがある。これは、誰が何をしたかということを表すものであり、これを適切に把握しないと話の流れがまったく分からなくなる。今回の転写（聞き起こし）の対象は口承文芸であるが、アイヌの大部分の口承文芸においては、主人公が「私が～した。」という語り口で進んでいく。それは自動詞の場合、人称接辞anで表されるが、これは「いる」という意味のanと同形であり、「いる」という意味の動詞と区別するために=anという文法的な役割表示も含んだ表記を採ることにしている。たとえばan=an「私が・いる」の前部のanは「いる」という動詞であり、後部の=anは「私が」という人称接辞である。

この=anを人称接辞として捉えるには、アイヌ語に対する習熟度の向上が必要になる。たとえばhawean「言う」は、語源による分解をすればhawe an「声が・ある」だが、語源による分解に基づいて解釈してしまうと、hawe an anという表現が出てきたときにhawe an=an「声が 私が・いる」という意味不明の解釈になる可能性がある。実際にはhaweanは「（彼・彼女が）言う」であり、hawean=anは「私が言う」であって、これを間違えると話の理解ができなくなる。アイヌ語の音声資料は、話の理解ができて初めて文字で表記できるのである。こうした文法現象と聞き取り、解釈の深いつながりを数度聞いただけで把握できるのは、専門の研究者の中でも一握りに限られている。今回使用した音声資料は、転写・翻訳担当者（平取町民及び関係者）のアイヌ語習熟度では、何度も何度も聞き直し、その上で研究

者からの指導を受けて初めて把握できるような高難度のものであった。こうしたレベルの音声資料が転写（聞き起こし）の対象となっていたことが、想定以上に時間がかかった理由の一つである。

また、アイヌ口承文芸の中で最も難しいのはユカラで、難解な固有名詞が度々登場する。こうした単語は慣れないと全く意味が分からない。例えば「Atuyya kotan」（アトゥイヤコタン：集落名）などがある。ユカラに出てくる言葉は、辞書に出てないものが多いので、慣れと類例検索が非常に重要となる。さらに、本来の発音に関係のない音を伴う節も度々出てくる。例えば「hawa」は、本来は「awa」なのだが、韻文中では頭に「h」を伴って発音されることが多々あり、こうしたものの聞き取りには通常の会話・散文に習熟したものでも、訓練が必要である。

こうした課題を抱えていることから、講習を2年間にわたって行うことで掛かる時間は大きく変わらないまでも、転写（聞き起こし）の精度は格段に向上した。

7. 翻訳に時間の掛かる理由

転写と翻訳は本来一体化した作業であり、意味を考えずに音だけ同定するということは、「6. 転写（聞き起こし）に時間のかかる理由」で示したとおり、特にアイヌ語では不可能である。音の聞き取りから意味を判定し、意味の解釈からフィードバックさせて音を再同定し、文字にするという絶え間ない作業が、実際の作業の際には行われるので、転写（聞き起こし）と翻訳を時間的に厳密に分離することはできない。

翻訳を行なう際の重要な問題は、転写（聞き起こし）と同じく網羅的に語彙を擁する大規模な辞典がないことと、不明点を尋ねられるような母語話者がいないことにある。それを補うに当たっては、検索をするための既存テキストの打ち込みという作業が有効である。既存のテキストの打ち込みを行うことによって、辞典に載っていない語の用例を見られるようになる可能性があるからである。大変な時間は掛かるが、専門の研究者の直接指導をすぐに受けられない現在の平取のような状況においても、転写（聞き起こし）や翻訳を行う際のデータベースを整えるということになる。翻訳を進めることと並行して作業を進めることになるが、転写・翻訳担当者のアイヌ語表現と文法の習熟度を上げることもつながるため、欠くことのできない作業であった。

また、ユカラの表現は、言わば『源氏物語』を訳すようなものなので、現代語の知識だけでは古典の『源氏物語』を訳したり、理解したりできないのと同じように、アイヌ語学習で学ぶ日常のアイヌ語の知識だけでは対応できず、ユカラ独特の表現に関する特別な知識が必要である。実際問題として、ユカラのテキストの翻訳作業を本格的に行った研究者は歴史的に見ても金田一京助、久保寺逸彦、萱野茂、蓮池悦子、奥田統己など、アイヌ語研究者の中でのごく少数の人間に限られると言ってよい。千葉大学教授中川裕自身、ルパイェと呼ばれる散文形式のユカラに関しては転写（聞き起こし）・翻訳の実績があるが、サコイエ「節つき」のユカラを丸々訳出した経験はない。したがって今回のような転写（聞き起こ

し)・翻訳担当者によってユカラの翻訳そのものにどのくらい時間が掛かるかは、あらかじめ想定すること自体が非常に困難であった。そのため、「転写(聞き起こし)・翻訳」とまとめて考えるしかなかった。

以上のような理由で、実際の作業は、転写(聞き起こし)と翻訳を合わせた時間が、当初の想定を大幅に超えるものになった。

なお、アイヌ口承文芸のテキスト作成に当たっては、音声資料をそのまま聞き起こしたものと翻訳だけでは不十分であり、注釈によって用語や世界観の解説を加えていくことが望ましい。平成26年度の調査研究では、どの部分に注釈を付ける必要がありそうで、どうい内容の注釈にすべきかといった具体的な検討を行い、注釈を付すこととした。

8. 謝金の計算方法とその考え方の妥当性

転写と翻訳は厳密には分離できないという考えの下、転写作業、翻訳を一体のものとして、音声資料1分当たり謝金単価1,400円ということで実施した(一連の作業として行なう必要があるため、転写と翻訳それぞれ個別に単価設定は行っていない)。

この金額設定については、アイヌ語の転写(聞き起こし)・翻訳に関わる人材の問題を考慮する必要がある。2か年にわたる転写(聞き起こし)・翻訳担当者(平取町民及び関係者)8名中7名は企業や自営業等の仕事に就いている。仕事の合間にアイヌ語上級講座(アイヌ文化振興・研究推進機構主催)を受講したり、地域住民にアイヌ語を教えたりして、自身のアイヌ語の向上に努めている。なお、本転写(聞き起こし)・翻訳担当者の内、4名は平取町二風谷アイヌ語教室の講師も務めている。

「アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究」は調査研究事業であって、アイヌを対象とした継続的な雇用対策事業として行なうわけではない。ただ、アイヌ語の転写(聞き起こし)・翻訳という特殊作業を通じた成果の提出を中心としつつも、今後のアイヌ語音声資料のアーカイブ化を考えた場合、その取組に寄与でき、公開された音声資料を使つての指導もできる、より高度な人材の育成という面もある。したがって事業期間のみ、アイヌ語の知識を十分に持つ専門の研究者数人に依頼して作業を行う形では、今後の展望をにらんでいる事業の趣旨に合わない。その上、研究者数人だけでは、転写(聞き起こし)・翻訳のできる量も限られてしまう。できる量を増やしたくても、必要な人数だけ専門の研究者を確保すること自体が実現困難であるという現実がある。

母語話者でない人間が、網羅的で大規模な辞典や詳細な文法書も完備していない言語について、しかも他人の録った音声資料の分析を行うということは、千葉大学教授中川裕のような専門の研究者でも苦勞するところである。自分が採録したものであれば不明点をその時に質したり、別の機会に録った音声資料を参照したりして補えるが、他人の録音したものは、音質がクリアである保証もない中で、ただその音声だけを手掛かりに解釈することになるので、非常に困難が伴うのが一般的である。したがって、網羅的で大規模な辞典や詳細な文法書が完備されており、母語話者に確認も取りやすい英語やフランス語の翻訳

と同様に捉えることはできない。文字を持っている言語においては、正書法も確立されていることが多く、音声の転写（聞き起こし）もやりやすい上、通常の翻訳は確定された文章がそこにあるわけだが、アイヌ語の音声資料の分析というのは、文章の確定からやっつけなければならぬので、通常の文字資料の翻訳とは根本的に違っている。

文化庁の平成25年度謝金単価によると、原稿作成1枚（400字）当たりの単価は1,800円であり、英文和訳の翻訳1枚（400字）当たりの単価は4,000円である。400字詰め原稿用紙1枚分が口頭での大体1分くらいになると言われていることを考えると、一からの構築作業を含むアイヌ語の転写（聞き起こし）・翻訳作業の謝金を、1分当たり単価1,400円とした設定は東京に対する北海道という地域差を勘案しても、決して高すぎることはなく、少し安いかな線だったと考えられる。

なお、北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、日額（北海道単価）で学生などの作業員を雇用し、センターに常駐する研究員の指導の下で作業を行なっている。これは、道内主要大学が集まっている札幌市にあり、アイヌ語を専門とする研究者のいる機関のやり方として可能なものである。平取町立二風谷アイヌ文化博物館を拠点に行なう場合は日々の指導も含めて難しい部分があり、同じように行うことはできない。今後、アイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）・翻訳が行われる場合、札幌市のような環境にあるところはほかにはなく、謝金を換算するためには、音声資料の1分当たりの単価を設けるやり方が現実的である。

将来的に人材が増えていけば、ノウハウも増えて作業効率が上がり、雇用等のやり方も検討の余地が出てくるかもしれないが、現時点では担当した音声資料の分単価で謝金を計算して成果を提出してもらう方法が妥当と考えられる。

9. 使用した音声データの内容と録音状態の特徴

本事業の音声資料は、平取町教育委員会が主体となって昭和44年に記録した、アイヌ口承文芸のオープンリールテープである。総録音時間は、1,478分03秒で、録音されている内容の内訳は、ウエペケレ:681分31秒、カムイユカラ:187分22秒、ユカラ 198分06秒、ルパイエ:67分02秒、言葉遊び:01分18秒、萱野茂氏によるインタビュー・録音内容の説明等（転写の実績は表3のとおり）:342分44秒である。

記録後今日に至るまで非公開の資料であり、アイヌ語アーカイブ作成のための調査研究に用いる音声資料として量的にも十分なものがあり、かつ保存状態はかなり良好である。採録者6名の居住地は沙流川流域の各地にわたっており、全員が流暢なアイヌ語話者である。したがって母語話者ならではの発声と滑らかさのある語りとなっており、アイヌ語・アイヌ口承文芸のアーカイブ化に適した音源と言える。

保存されている録音メディアは、アナログのオープンリールテープであり、録音から40年以上がたっており、どうしてもノイズが含まれてしまう状態ではあるが、保存状態が良かったことで、同じ年数を経過した音声資料としては、かなり音質も良い方に分類される。

表3 萱野茂氏によるインタビュー・録音内容の説明等 転写実績

話者	ファイル	時間	話者	ファイル	時間
貝澤とうるしの	1-①	0:03:28	鍋澤ねぶき	14-③	0:03:10
貝澤とうるしの	1-③	0:06:04	鍋澤ねぶき	14-⑤	0:00:57
貝澤とうるしの	1-⑤	0:03:14	鍋澤ねぶき	14-⑨	0:05:31
貝澤とうるしの	1-⑦	0:04:00	鍋澤ねぶき	14-⑩	0:00:27
貝澤とうるしの	1-⑨	0:05:31	鍋澤ねぶき	15-①	0:00:17
貝澤とうるしの	2-①	0:00:25	鍋澤ねぶき	15-③	0:01:26
貝澤とうるしの	2-③	0:06:17	鍋澤ねぶき	15-⑤	0:01:05
貝澤とうるしの	2-⑤	0:06:37	鍋澤ねぶき	15-⑦	0:03:13
貝澤とうるしの	2-⑦	0:06:36	鍋澤ねぶき	15-⑨	0:01:50
貝澤とうるしの	3-①	0:02:57	鍋澤ねぶき	15-⑪	0:03:05
貝澤とうるしの	3-③	0:06:49	鍋澤ねぶき	15-⑭	0:00:48
貝澤とうるしの	3-⑤	0:06:06	鍋澤ねぶき	15-⑯	0:04:25
貝澤とうるしの	3-⑦	0:06:25	鍋澤ねぶき	16-①	0:00:39
貝澤とうるしの	4-①	0:00:18	鍋澤ねぶき	16-③	0:02:40
貝澤とうるしの	4-③	0:07:21	鍋澤ねぶき	16-⑤	0:03:30
貝澤とうるしの	4-⑤	0:06:19	鍋澤ねぶき	16-⑦	0:00:57
貝澤とうるしの	4-⑦	0:01:48	鍋澤ねぶき	16-⑨	0:01:53
貝澤とうるしの	4-⑨	0:03:00	鍋澤ねぶき	16-⑪	0:01:44
貝澤とうるしの	4-⑪	0:05:29	鍋澤ねぶき	17-①	0:00:18
貝澤とうるしの	4-⑫	0:00:28	鍋澤ねぶき	17-③	0:01:40
貝澤とうるしの	5-①	0:00:34	鍋澤ねぶき	17-⑤	0:02:35
貝澤とうるしの	5-③	0:07:29	鍋澤ねぶき	17-⑦	0:05:51
貝澤とうるしの	5-⑤	0:03:12	鍋澤ねぶき	17-⑨	0:06:03
貝澤とうるしの	5-⑦	0:07:38	平賀さだも	10-②	0:09:37
貝澤とうるしの	5-⑨	0:05:02	平賀さだも	11-③	0:06:00
貝澤とうるしの	5-⑩	0:00:14	平賀さだも	11-⑤	0:09:21
貝澤とうるしの	6-②	0:09:47	平賀さだも	11-⑦	0:00:21
貝澤とうるしの	6-④	0:08:36	平賀さだも	12-①	0:00:30
貝澤とうるしの	6-⑥	0:02:45	平賀さだも	13-①	0:00:25
木村きみ	20-①	0:06:17	平賀さだも	13-③	0:02:26
木村きみ	20-③	0:07:08	平賀さだも	7-①	0:03:37
木村きみ	20-⑤	0:00:29	平賀さだも	8-①	0:00:25
木村きみ	20-⑦	0:01:11	平賀さだも	8-③	0:03:31
木村きみ	20-⑧	0:00:14	平賀さだも	8-⑤	0:04:35
木村きみ	21-①	0:00:15	平賀さだも	8-⑦	0:08:59
木村きみ	21-③	0:13:09	平賀さだも	8-⑨	0:02:45
木村きみ	21-⑤	0:01:21	平賀さだも	8-⑪	0:02:23
木村きみ	22-①	0:00:12	平賀さだも	8-⑫	0:01:06
黒川てしめ	22-③	0:00:21	平賀さだも	9-①	0:00:15
黒川てしめ	22-⑤	0:05:11	平賀さだも	9-⑤	0:00:46
黒川てしめ	22-⑧	0:03:48	平目よし	18-①	0:03:31
黒川てしめ	23-①	0:00:24	平目よし	18-③	0:11:03
黒川てしめ	23-②	0:06:08	平目よし	18-⑤	0:00:11
黒川てしめ	23-⑦	0:02:34	平目よし	19-①	0:00:28
黒川てしめ	24-①	0:00:13	平目よし	19-③	0:10:06
黒川てしめ	24-⑪	0:00:20	平目よし	19-⑥	0:00:45
鍋澤ねぶき	14-①	0:05:27	平目よし	7-③	0:16:23
			合計		5:42:44
					(342分44秒)

※1-①は1号ディスクのトラック1であることを示す

平取町として、将来的な保存と活用を意図して、オープンリールテープのオリジナル音声資料を特別な加工をせずに、平成23年にデジタル化しており、今回の調査研究では、主にデジタル化された音声資料を使用し、オリジナルは必要のある場合に限り確認のために用いている。

なお、アナログの音声資料やパソコン等での作業ができないデジタル音声資料（MD、DAT等）しかない場合、アイヌ語アーカイブを作成するに当たっては、まずはMP3などパソコンで作業のできる形式でのデジタル化の作業が必要となるのは、言うまでもない。

10. アイヌ語音声データをデジタル化するに当たっての留意点

音声資料のデジタル化については、アナログでは劣化してしまい早晩聞くことができなくなるので、非常に緊急性が高い。また、MDやDATで保存されている音声資料も、再生できる機器がいつまで使えるかという問題が生じており、やはりパソコンで作業できる形式で保存し直す必要がある。北海道所有のアナログ音声資料は、北海道立アイヌ民族文化研究センターによってデジタル化がほぼ完了している。しかし、北海道内の市町村では、アイヌ語のアナログ音声資料を持っていても、保存することで精一杯で、デジタル化の必要性を認識しているところは余りない上、仮に認識されても、生活に密着している施策が優先されやすいことから、アイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化の優先順位が高くなることはなかなか期待できない状況にある。デジタル化の必要性を周知し、その緊急性に鑑みて、国としてデジタル化に取り組むことが必要である。貴重な音源を保存・活用していくためには、アナログ音声資料が使えない状態になる前の今しかない。アナログ音声資料のデジタル化については、アイヌ政策推進会議政策推進作業部会でも委員から課題として発言があった事柄であり、アイヌ政策を推進する方向性としては、アイヌの委員を含む有識者の考える方向性とも合致しているものである。

ただし、音楽的な音声資料と異なり、言語資料のデジタル化に当たっては、単純なノイズ低減のような調整を行うと、特に摩擦音系の子音はそれ自体がノイズのように聞こえるため、かえって正確に聞き取れなくなってしまう場合がある。したがって、ノイズ低減を行う場合は、何回か違う条件で聞き取り実験を行い、その音声資料にとって最適な設定を見いだした上でデジタル化しないと、むしろ音質劣化を起こすことになってしまう危険がある。それだけに、アナログ音声を単純にデジタル化する形での費用計算ではなく、専門の研究者の協力を得てノイズ軽減などの処理を行うことを含めての費用計算をする必要がある。

11. 一般的に、アイヌ語の音声資料の転写（聞き起こし）や翻訳の作業に携われる人材がどの位いると推定されるか

千葉大学教授中川裕と同様の精度と速さでアイヌ語の転写・翻訳を行える人材は、全国でおそらく10人に足りないであろう。そのほとんどは大学や研究機関の研究者であり、ア

アイヌとしてのアイデンティティーを持っている人材は、その中のまたごく一部である。さらに、今回の転写（聞き起こし）・翻訳担当者（平取町民及び関係者）と同じくらいの速度と精度でその作業を行える人材ということであれば、大学でアイヌ語を専攻している学生なども含めれば、全国で30人くらいと推察される。

今後、アイヌ語の研究やアイヌ語の継承運動を充実させていくためには、大学や研究機関の関係者以外にも裾野を広げて、特に、アイヌとしてのアイデンティティーを持っている人材を育成していく必要がある。

12. 北海道内にあるアイヌ語音声資料のデジタル化の状況について

現在、北海道が所有するアイヌ語音声資料は、北海道立アイヌ民族文化研究センター、北海道開拓記念館、北海道立北方民族博物館、北海道立図書館に収められている。それらの音声資料は北海道立アイヌ民族文化研究センターによってデジタル化がほぼ完了している。さらにその内、約5割は同センターホームページ内の「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」で公開されている。

これは、音声の概要は紹介されているが、音声聞けるだけで、転写（聞き起こし）や翻訳は付されていない。

また、市町村が所有するアイヌ語音声資料や個人が所有するアイヌ語音声資料については、その全てが把握されているわけではないが、デジタル化を行っているという情報があるのは、ごく一部のもの（例えば帯広市、平取町所有の内の一部）である。また、北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、森町教育委員会の村岡文庫中のピリカ会関係資料、伊達市噴火湾文化研究所のジョン・バチラー資料、長万部町教育委員会録音資料、弟子屈町教育委員会の更科源蔵資料について、徐々にではあるがデジタル化及び整理・保存が進められている。

それ以外は、アナログのまま保管されており、デジタル化が急がれる。

13. 文法タグのサンプルについて

今回の事業計画の一つとして、今後アイヌ語音声資料のアーカイブ化を行い、テキストの一般公開を行っていくに当たり、その語学的理解に必要な文法情報をテキスト上で単語単位に付与する（これを「文法タグ」と呼ぶ）方式を検討することが含まれている。これについては、国立国語研究所特任准教授アンナ・ブガエワ氏が開発し、千葉大学人文社会科学部博士後期課程院生小林美紀が木村きみ氏（今回の平取町資料の話者の一人）のテキストに適用したものを以下に提示する。より普遍性を持つ、研究者向けの形式としては左端の「略語」を使うことになろうが、専門家ではない一般の利用者を対象にした形式としては、右端の「日本語グロス」を付すことになるだろう。

略語	英語	日本語	日本語グロス
1/2/3/4	1st /2nd / 3rd / 4th person	1/2/3/4 人称	1/2/3/4
Ø	zero-marked 3rd person	ゼロマーカ-3 人称	
=	inflectional boundary in the morphemic line	屈折の境界	=
-	derivational boundary in the morphemic line	派生の境界	-
A	transitive subject	他動詞主語	他主
ADV	adverbial	副詞的	副形成
AO	applicative object	充当相の目的語	
APASS	antipassive	逆受動	人/もの
APPL	applicative	充当相	
ARG	argument	項	
AUX	auxiliary verb	助動詞	助動
CAUS	causative	使役	～させる
CLF	classifier	類別	
COHR	cohortative	勧誘	～しよう
COMP	complementizer	補文標識	ということ
COP	copula	コピュラ	である
DIM	diminutive	指小辞	指小辞
DESID	desiderative	願望	～したい
EMP	emphatic particle	強調詞	も
EP	epenthetic consonant	挿入子音	挿入子音
EXC	exclusive	除外的	除外
EXCL	exclamatory particle	感嘆詞	よ/ね
FIN	final particle	終助詞	よ/ね/な/ぞ/ぜ
INC	inclusive	包括的	包括
INDF	indefinite	不定	4 人称
INFR.EV	inferential evidential	推量の証拠性	～の
IMP . POL	imperative polite	命令丁寧形	命令.丁寧
NEG	negative particle	否定	ない
NONVIS.EV	nonvisual evidential	非視覚的感覚の証拠性	～の感じ
NMLZ	nominalizer	名詞化辞	名詞化
O	object	目的語	目
PERF	perfect	完了	完了

原文：pak katkemat isam katkemat a=sa-ha ne wa
略号：till wife not.exist wife 4. POSS=older. sister-POSS COP and
日グ：～まで 奥さん ない 奥さん 4. 所有 姉-～の ～である して
和訳：姉は、並ぶものがない立派な女性である

原文：ne kuni a= ramu
略号：COP COMP 4. A= think
日グ：～である と 4. 他主= ～を思う
和訳：と私は思っていた。

原文：a=yup-utar-ih i a=sa-ha ye pe
略号：4. POSS=older. brother-PL-POSS 4. POSS=older. sister-POSS say thing
日グ：4. 所有=兄-複数-～の 4. 所有=姉-～の ～と言う もの
和訳：兄たちは、姉の言うことを何でも

原文：nu pa wa
略号：hear PL and
日グ：～を聞く 複数 して
和訳：聞いて、

原文：nennen i-ki pa kor
略号：various APASS-do PL and
日グ：いろいろと もの-～をする 複数 ながら
和訳：いろいろなことをやって

原文：oka=an pe ne a p
略号：exist. PL=4. S thing COP PERF. SG while
日グ：ある. 複 4. 自主 もの ～である 完了. 単 だが
和訳：暮らしていたが、

原文：a=yup-utar-i rupne pa hi orano
略号：4. POSS=older. brother-PL-POSS grow.up PL time then
日グ：4. 所有=兄-複数-～の 大きい 複数 とき それから
和訳：兄たちは成長すると、

原文：yuk ci-koyki-p kamuy ci-koyki-p
 略号：deer 1PL.A-kill-thing bear 1PL.A-kill-thing
 日グ：シカ 私たち-~をとる-もの クマ 私たち-~をとる-もの
 和訳：シカやクマを

原文：nuwe ko-oka
 略号：abundant.game to.APPL-exist.PL
 日グ：たくさんの獲物 ~に対して-ある.複
 和訳：たくさん捕ってきた。

原文：nep a=e rusuy nep a=kor rusuy somo ki no
 略号：what 4.A=eat DESID what 4.A=have DESID NEG do and
 日グ：何 4.他主=~を食べるしたい何 4.他主=~を持つ したい 否定 ~をする して
 和訳：私は何を食べたいとも欲しいとも思わずに暮らし、

原文：si-poro cise or ta ineapta nispa an usi
 略号：true-be.big house place at EXCL rich.man exist.SG place
 日グ：本当-大きい 家 ~のところ ~に なんとまあ ニシパ ある.単 ところ
 和訳：とても大きな家に (いたが、その家は) たいそう立派な長者の家

原文：ne wa sir-an ya ka a=eramiskari
 略号：COP and appearance-exist.SG Q even 4.A=not.know
 日グ：~である して 様子-ある.単 か も 4.他主= ~を知らない
 和訳：のようであった。

原文：coypep ne manu pe sorekusu tu ikir ne ka
 略号：dish COP called thing exactly two pile as even
 日グ：皿 ~である とかいう もの それこそ 2 まとまり ~としても
 和訳：宝物の食器というものも、二重の列をなして

原文：u-sos-kamu no sir-an ruwe ne
 略号：REC-layer-cover.sth? and appearance-exist.SG INFR.EV COP
 日グ：互い-重なり-~を覆う? して 様子-ある.単 ~のこと ~である
 和訳：積み重なっていた。

原文：ruwe ne hine oka=an ruwe ne a p
略号：INFR. EV COP and exist. PL 4. S INFR. EV COP PERF. SG while
日グ：～のこと ～である して ある. 複=4. 自主 ～のこと ～である 完了. 単 だが
和訳：そうやって暮らしていたところ、

原文：a=sa-ha ene haw-e-an hi
略号：4. POSS=older. sister-POSS like. this voice-POSS-exist. SG thing
日グ：4. 所有=姉-～の このように 声-～の-ある. 単 こと
和訳：姉がこのように言った。

14. アイヌ語音声資料のアーカイブ化のための設計図

2年間にわたる調査研究の成果を基に、アイヌ語音声資料のアーカイブ化の手順を整理すると、次のようになる。

ここで示した手順、様式で各地の音声資料のアーカイブ化が行われれば、横断的な検索にも資するものとなり、各地がばらばらに実施するよりも有益なアーカイブが構築されるので、この方向で進められることを期待する。

- ①アイヌ語のアナログ音声資料又はMD，DATに収録された音声資料のデジタル化
→ パソコンで作業のできるMP3などの形式にする。
- ②デジタル化された音声資料のデータの整理
→ 録音年月日，収録者名及び被収録者名，被収録者の生年月日・出身地等，収録場所，収録時間，収録内容等を記録し，収録内容に基づいてトラックに分割する。
- ③音声資料の一次転写（書き起こし）及び仮和訳
→ 音声資料を，音素表記を用いて転写（書き起こし）をし，仮和訳を行う。
- ④一次転写（書き起こし）及び仮和訳の確認
→ アイヌ語研究者の協力を得て，一次転写（書き起こし）及び仮和訳の確認を行う。
- ⑤二次転写（書き起こし）及び和訳，注釈の作成
→ アイヌ語研究者の指摘を踏まえて，転写（書き起こし）を修正し，和訳を調える。さらに，必要な注釈を作成する。
- ⑥二次転写（書き起こし），和訳及び注釈の確定
→ アイヌ語研究者の協力を得て，二次転写（書き起こし），和訳及び注釈の確認を行い，確定する。
- ⑦片仮名表記の作成と文法タグの作成

→ 確定した転写（書き起こし）に基づいて片仮名表記を加える。また、アイヌ語研究者の協力を得て、必要な文法タグを作成する。

⑧アーカイブとして公開する形式に調整

→ アーカイブとして公開するために、音声資料，転写（書き起こし），片仮名表記，和訳，注釈，文法タグを組み合わせる。

⑨アーカイブの公開

→ 音声資料を所有・管理するところで、アーカイブとして公開する。

音素表記による転写（書き起こし）は，次の音節表に基づいて実施したが，今後の転写（書き起こし）においても，横断的な検索の便を考えると，同様の音節表に基づくことが望まれる。なお、「子音+母音+子音」という音節(例 kik キク)もあるが、ここでは表記の例として「母音+子音」を挙げておく。

母音

a	i	u	e	o
---	---	---	---	---

子音+母音

ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa	wi	wu	we	wo

母音+子音

ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy

ar	ir	ur	er	or
aw	iw		ew	ow
母音				
ア	イ	ウ	エ	オ
子音+母音				
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		トゥ	テ	ト
チャ	チ	チュ	チェ	チョ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ	ウイ	ウ	ウエ	ウオ
母音+子音				
アク	イク	ウク	エク	オク
アシ	イシ	ウシ	エシ	オシ
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アプ	イプ	ウプ	エプ	オプ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ	イリ	ウル	エレ	オロ
アウ	イウ		エウ	オウ

片仮名表記への変換は、「アイヌ語ローマ字カナ変換 HTML Application」(<http://www.geocities.jp/aynuitak/WEBhenkan/chiyu.htm>) を用いて実施したが、今後の片仮名変換においても、横断的な検索の便を考えると、同様の表記を用いることが望まれる。

文法タグについては、「13. 文法タグのサンプルについて」に基づいて行われることが望まれる。

15. 事業報告会の実施

2か年にわたる調査研究の成果報告会を開催した。会場は札幌市と平取町で行い、本事業の概要説明と音源の調査報告を行った。その上でアイヌ口承文芸の楽しみ方、アイヌ語音声資料の重要性、故萱野茂による音声保存の意義等についての講演を行った。

また、平成27年度以降の「アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化事業」につながり得る音源の所在情報の提供を一般聴衆に呼び掛ける場ともした。

事業名称 文化庁委託事業 アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究報告会「アイヌ語の未来を考える - 音声資料をいかに活用していくか -」

事業内容 文化庁ではアイヌ語音声資料のデジタル化・アーカイブ作成のための調査研究事業を進めている。平成25年度からは、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の資料を対象に、町内外の関係者と千葉大学の協力を得ながら、基礎的な整理作業と研究を行った。

この資料は、同町教育委員会が故萱野茂氏に調査員を委嘱して昭和44年に記録したもので、6名の語り手はいずれも沙流川流域に暮らした流暢なアイヌ語話者である。

本報告会では、アイヌ口承文芸の魅力や、萱野氏の調査活動を紹介するとともに、この間の成果を取りまとめて報告する。

札幌会場 平成27年1月31日（土） 13:00～16:00（開場12:30）
北海道大学学術交流会館第一会議室 札幌市北区北8条西6丁目

平取会場 平成27年2月1日（日） 13:00～16:00（開場12:30）
沙流川歴史館レクチャーホール 沙流郡平取町二風谷227-2
※札幌会場、平取会場ともに同様の内容で実施

次	第	13:00～13:05	開会あいさつ
		13:05～13:25	概要説明 「アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組」 鈴木仁也（文化庁文化庁国語課国語調査官）
		13:25～13:40	報 告 「調査・研究の成果について」 関根健司（平取町二風谷アイヌ語教室講師）
		13:40～14:40	講演 1 「アイヌ口承文芸と音声資料」 中川 裕（千葉大学文学部教授）
		14:40～14:50	休 憩
		14:50～15:45	講演 2 「沙流のアイヌ口承文芸 - 萱野茂による記録 -」

萱野志朗（平取町二風谷アイヌ語教室事務局長）

15:45～16:00 質疑・応答

16:00 閉 会

主 催 文化庁，国立大学法人千葉大学，国立大学法人北海道大学アイヌ・先住民研究センター，平取町教育委員会

来場者数 札幌会場 82 名 平取会場 52 名 合計 134 名

アンケート集計結果 表 4・5 参照

成 果 報告会の開催内容(Q1)については、アンケートの多くが「とてもわかりやすかった」、「まあまあわかりやすかった」との回答であった。音声資料の一般普及に主眼をおいた報告会で、言語学的な専門領域に大きく踏み込む内容としなかったことが一般聴衆の理解度につながったとみられる。Q2の満足度についても、高い支持を得ることができた。理由はQ1と同様と考えられる。Q3の特に良かったものについては、中川裕の講演が最も高い票を得た。アイヌ口承文芸の内容やジャンル毎の説明、実際の音声披露が関心を引いた結果ともみられる。Q4の設問は、本アンケートで最も顕著な傾向が表れた。文化庁によるアイヌ語の保存・継承の取組が国語課主体で行われていることについて、認知度が低いことが示されることとなった。その一方、Q5・Q6の設問からは、大多数がアイヌ語のアーカイブ化に対して肯定的であることが分かった。アイヌ語の普及に対する一般の要望・関心を示す傾向と考えられ、本事業の意義についても、報告会で伝えることができたと考えられる。

表4 事業報告会アンケート集計結果1

札幌会場 平成27年1月31日(土)
 会場：北海道大学学術交流会館 第一会議室
 回答者数：54名

Q1 本日の報告会の内容は、全体として分かりやすかったですか

ア	とてもわかりやすかった	33
イ	まあまあわかりやすかった	19
ウ	余り分かりやすくなかった	0
エ	全く分かりやすくなかった	0
無記入		2

Q2 本日の報告会の内容には、全体として満足できましたか

ア	とても満足できた	28
イ	まあまあ満足できた	21
ウ	余り満足できなかった	3
エ	全く満足できなかった	0
無記入		2

Q3 特に良かったものは、どれでしょうか(複数回答)

ア	概要説明「アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組」	11
イ	報告「調査・研究の成果について」	12
ウ	講演1「アイヌ口承文芸と音声資料」	38
エ	講演2「沙流のアイヌ口承文芸 - 萱野茂による記録 -」	14
オ	一つもなかった	0
無記入		6

Q4 文化庁が、アイヌ文化振興・研究推進機構を経由しない形でも、アイヌ語の保存・継承の取組を行っていることを知っていましたか

ア	知っていた	9
イ	知らなかった	43
無記入		2

Q5 アイヌ語の音声資料を聞くことができるアーカイブが公開されたら、使ってみたいですか

ア	使ってみたい	49
イ	使ってみたくない	0
無記入		5

Q6 アイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化や、アイヌ語音声資料によるアーカイブ作成は、アイヌ語の保存・継承のために進めるべきであると考えますか

ア	進めるべきである	50
イ	進める必要はない	0
無記入		4

回答者

北海道内	42	男性	26
北海道外	7	女性	18
無回答	5	無回答	10

10代	0	50代	6
20代	15	60代	10
30代	4	70歳以上	8
40代	6	無回答	5

表5 事業報告会アンケート集計結果2

平取会場 平成27年2月1日(日)
 会場：沙流川歴史館 レクチャーホール
 回答者数：36名

Q1 本日の報告会の内容は、全体として分かりやすかったですか

ア	とてもわかりやすかった	21
イ	まあまあわかりやすかった	15
ウ	余り分かりやすくなかった	0
エ	全く分かりやすくなかった	0
無記入		0

Q2 本日の報告会の内容には、全体として満足できましたか

ア	とても満足できた	19
イ	まあまあ満足できた	15
ウ	余り満足できなかった	2
エ	全く満足できなかった	0
無記入		0

Q3 特に良かったものは、どれでしょうか(複数回答)

ア	概要説明「アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組」	5
イ	報告「調査・研究の成果について」	13
ウ	講演1「アイヌ口承文芸と音声資料」	25
エ	講演2「沙流のアイヌ口承文芸 - 萱野茂による記録 -」	12
オ	一つもなかった	0
無記入		2

Q4 文化庁が、アイヌ文化振興・研究推進機構を経由しない形でも、アイヌ語の保存・継承の取組を行っていることを知っていましたか

ア	知っていた	11
イ	知らなかった	25
無記入		0

Q5 アイヌ語の音声資料を聞くことができるアーカイブが公開されたら、使ってみたいですか

ア	使ってみたい	33
イ	使ってみたくない	3
無記入		0

Q6 アイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化や、アイヌ語音声資料によるアーカイブ作成は、アイヌ語の保存・継承のために進めるべきであると考えますか

ア	進めるべきである	33
イ	進める必要はない	0
無記入		3

回答者

北海道内	35	男性	14
北海道外	0	女性	17
無回答	1	無回答	5

10代	2	50代	9
20代	5	60代	2
30代	4	70歳以上	4
40代	9	無回答	1

凡 例

- ・各話のタイトルは、原資料（オープンリール）の箱に萱野茂氏が記したものをそのまま使用した。ただし、和訳は各担当者による。
また、原資料にタイトルがない話については、担当者が適宜つけた。
- ・アイヌ語カナ表記は話者の発音をそのまま記したが、ローマ字表記においては単語の切れ目などがわかるように分析した表記をとっている。そのため、両者の間にずれが生じる場合もある。
例) **sekor** 「〜と」の **e** が弱化している場合は、「シコロ／**sekor**」とそれぞれ表記。
- ・アイヌ語ローマ字表記は、中川裕、1995『アイヌ語千歳方言辞典』（草風館）の表記方法に準拠した。
- ・アイヌ語カナ表記は、インターネット上のアイヌ語変換プログラム（「アイヌ語ローマ字カナ変換 HTML Application」<http://www.geocities.jp/aynuitak/WEBhenkan/chiyu.htm>）を使用したため、上記のプログラムによる表記に従っている。詳細は「事業の概要」23-24 ページ参照。
- ・アイヌ語のなかに日本語が混じる場合、ローマ字表記ではローマ字の大文字、カナ表記ではひらがなで記した。
- ・言いさし（言いかげ）は、... もしくは …… で示した。
- ・音が変化する部分は、変化する部分の直後にアンダーバーで表した。
（例：オッタ→**or_ ta** / アンマ→**an w_a**）
- ・聞き起こし・解釈に疑問が残る部分は、直後に(?) を付した。
- ・不明点は、**XXX** であらわした。
- ・何らかの理由で、単語の一部のみが発音されている場合などは（ ）でその内容を補った。
例) ソンだけしか聞こえないが、ソンコ **sonko** 「伝言」の意味だと考えられる場合
ソン (コ) **son(ko)**

- ・英雄叙事詩において、韻律の都合による挿入音が聞こえる場合、カナ表記ではそれも反映している。ローマ字表記においては [] で記した。これは文法上・解釈上は意味のない音である。
- ・和語解説中においてアイヌ語が混じる場合、ローマ字で表記し、意味は、読んだときにわかる程度におぎなった。その場合は、直後に亀甲カッコ [] の中に意味を入れている。
- ・語釈などについては各担当者の判断にゆだね、全体として統一はしていない。同じ語であっても、語の区切り・和訳などに違いがあるのはそのためである。
- ・なお、テキストのうち、1-1、7-1、13-3、14-1、18-1、20-1、22-5、23-2、23-7 については、個人情報を含む内容のため、非公開とした。

参考文献略称

- 『アイヌの叙事詩』：鍋沢元蔵（筆録）、門別町郷土史研究会（編）、1969『アイヌの叙事詩』門別町郷土史研究会
- 『音声資料』：田村すず子（編著）、1984～1999『アイヌ語音声資料』早稲田大学語学教育研究所
- 『萱野辞典』：萱野茂、2002（1996）『萱野茂のアイヌ語辞典〔増補版〕』三省堂
- 『クトゥネシリカ』：鍋沢元蔵（筆録）、門別町郷土史研究会（編）、1965『アイヌ叙事詩 クト^oネシリカ』門別町郷土史研究会
- 『久保寺辞典稿』：久保寺逸彦（編）、1992『アイヌ語・日本語辞典稿』北海道教育委員会
- 『沙流方言辞典』：田村すず子、1996『アイヌ語沙流方言辞典』草風館
- 『静内語彙集』：奥田統己（編）、1999『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集』札幌学院大学
- 『神謡・聖伝の研究』：久保寺逸彦、1977『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店
- 『神話集成』：萱野茂、1998『萱野茂のアイヌ神話集成』（全10巻）ビクターエンタテインメント
- 『千歳方言辞典』：中川裕、1995『アイヌ語千歳方言辞典』草風館
- 『知里動物篇』：知里真志保、1976『知里真志保著作集別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 動物篇・植物篇』平凡社
- 『知里人間篇』：知里真志保、1975『知里真志保著作集別巻Ⅱ 分類アイヌ語辞典 人間篇』平凡社
- 『バチェラー辞典』：ジョン・バチェラー、1995（1939）『アイヌ・英・和辞典』岩波書店
- 『ユーカラ集』：金成まつ（筆録）、金田一京助（訳注）、1959-75『アイヌ叙事詩ユーカラ集』（全9巻）三省堂